

## 1 単元について

対象学年	中学校 第2学年
学習指導要領	読むこと(ウ) 書くこと(ウ)
単元名	LESSON 3 Student Reports, Let's WRITE1 遠足の報告をします(全9時間) NEW CROWN ENGLISH SERIES 2
単元目標	<p>体験活動についての報告文を、読み手を想定しながら積極的に書き伝えようとする。(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)</p> <p>体験活動について、過去形や過去進行形を用いて、読み手に正しく伝えるとともに、書く内容や表現を工夫して書くことができる。 (表現の能力)</p> <p>体験活動の報告文について、その概要や要点を正しく読み取ることができる。 (理解の能力)</p> <p>過去形や過去進行形が表す内容を正しく理解するとともに、現在形との違いを理解している。(言語や文化についての知識・理解)</p>
配慮事項	<p>基礎的・基本的な内容の確実な定着の工夫について</p> <p>単元の指導過程の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の導入にあたり、終末の言語活動への見通しをもたせる。単元の終末で目指す表現活動の具体的なイメージをもたせることにより、毎時間の言語活動を積み上げることが大切であることを理解させる。</li> <li>・書くことにつながる対話活動を毎時間位置付ける。対話しながら書く内容を想起し、書くための表現を覚えられるよう話すことについても評価し、見届けていく。</li> </ul> <p>単位時間の指導過程の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間、過去形あるいは過去進行形を用いた対話活動や自分の体験を書く活動を位置付け、単元の終末の表現活動への抵抗を取り除く。</li> </ul> <p>言語活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書く活動において、表現内容を重視し、生徒に「楽しかった思い出を書いてみたい。伝えたい。」という思いをもたせるために、体験活動の写真から自分が最も印象に残った場面を選ばせ、それを見ながら対話させることによって、書くことへの意欲付けを図る。</li> <li>・「ALT、後輩や校内の先生方、交流先の中学生を対象に、楽しかった思い出を伝えるために書く」と読み手や書く目的を明確にする。</li> </ul> <p>評価の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の魅力、表現形式の工夫、英語表現の正しさを認める教師の評価</li> <li>・書く内容(事実と感想)を明確にもち、読んでもらうためにどんな工夫をしたかを大切に自己評価を位置付ける。</li> <li>・書かれた英文の内容が理解できるかや、書かれた英文にはどんな工夫がされているかを大切に読み手からの評価を位置付ける。</li> </ul>
参考資料	<p>資料1：生徒の作品例と感想の例</p> <p>資料2：学習プリント例</p>

2 単元の評価規準

	ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 表現の能力	ウ 理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
読むこと の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「読むこと」や「書くこと」の言語活動に積極的に取り組んでいる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・初歩的な英語で書かれた情報を正しく読み取ることができる。</li> <li>・初歩的な英語を、目的に応じて適切に読むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。</li> </ul>
話すこと の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初歩的な英語を用いて、自分の考えや気持ちなどを正しく話すことができる。</li> <li>・初歩的な英語を用いて、相手や場面に応じて適切に話すことができる。</li> </ul>		
書くこと の評価規準		<ul style="list-style-type: none"> <li>・初歩的な英語を用いて、自分の考えや気持ちなどを書くことができる。</li> <li>・初歩的な英語を用いて、目的に応じて適切に書くことができる。</li> </ul>		
単元 の 評 価 規 準	<p>(言語活動への取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちがいを恐れず、多くの文を書いている。</li> <li>・報告文にふさわしい話題や表現内容を正しく選択している。</li> </ul> <p>(コミュニケーションの継続)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力的な報告文になるように、さまざまな工夫をしながら、書</li> </ul>	<p>(正確な発話)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・尋ねられたことにはっきりとした音声や正しい語順で話すことができる。</li> </ul> <p>(適切な発話)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験したことについて、いつ、どこでなどの要点を落とさずに話すことができる。</li> </ul> <p>(正確な筆記)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読み手に自分の考えなどが伝わるよう、文法、単語のつづりなどを正し</li> </ul>	<p>(正確な読み取り)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事実(いつ、どこで、だれが、何をした)とその時の筆者の気持ちを読み取ることができる。</li> </ul> <p>(適切な読み取り)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事実や気持ちを表す語に着目しながら読むことができる。</li> </ul>	<p>(言語についての知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動詞の過去形と過去進行形が表す内容の違いを正しく理解している。</li> <li>・体験活動について表現するための英文や語句を理解している。</li> <li>・一つの事象は、意向や状況等によりいろいろな英語で表現できることを知っている。</li> </ul>

	<p>いている。</p>	<p>く書くことができる。  (適切な筆記)  ・報告文に表すために、書きたい内容を整理して、事実と感想をまとまりのある英文で書くことができる。</p>		
<p>単位時間における具体的な評価規準</p>	<p>自分の経験を、英語表現につまりながら、ジェスチャーやカタカナ英語などを用いて話している。対話活動において相手が答えやすいよう繰り返したり、あいづちをうったりしている。教科書の報告文を「いつ」「だれが」「何をした」の事実や、その時の感想に着目しながら、読み取ろうとしている。印象に残った思い出を、まちがいを恐れず、いくつもの文で書き進めている。会話文の使用や文順の工夫などを通して、より詳しく、分かりやすい文章を書こうとしている。</p>	<p>事実について、尋ねられたことに、はっきりとした音声で話すことができる。体験したことの感想について、尋ねられたことに、気持ちを表わす表現を用いて簡潔に話すことができる。事実について、「いつ」「だれが」「どこで」「何をした」が伝わるように書くことができる。感想を気持ちを表わす表現を用いて書くことができる。漁村体験の報告文を5文程度の英文で正しく書くことができる。</p>	<p>過去進行形を含む文の意味を、その前後関係を含めて理解できる。教科書の体験活動の報告文を読み、「いつ」「だれが」「何をした」などの事実や、その時の感想を読み取ることができる。仲間の報告文を読み、事実やその時の感想から、書き手の思いを読み取ることができる。</p>	<p>過去形と過去進行形の違いをふまえて過去進行形が過去のある瞬間の事実を叙述するのに有効であることを理解している。漁村体験について表現するために必要な語や語句を理解している。話し言葉を表現する時の記号“ ”の用法と、報告文の中に会話文を用いて表現すると臨場感が出ることを理解している。一つの事象は、話し手や書き手の意向、状況等により、いろいろな英語で表現できることを知っている。  例)「楽しかった」  ・事実に対する informal で自然な表現  It was fun.  I had a good time  I enjoyed it.  ・事実に対する formal な表現  It was enjoyable.  ・当時の様子を示す表現  I was happy.</p>

3 指導と評価の計画 (全9時間)

時	ねらい	学 習 活 動	評価規準				評価方法	指導・援助
			ア	イ	ウ	エ		
1	<p>きのうの夕方生活について、「～していましたか」と、過去進行形を用いてペアで対話することができる。</p> <p>過去進行形の形と用法について理解することができる。</p>	<p>【導入】</p> <p>“What were you doing at 8 p.m.?” の問いに答える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>過去進行形を使ってきのうの夕方生活について対話しよう</p> </div> <p>【展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・過去進行形の形を確認する。</li> <li>・「夕方生活」のリストの中から使用できる表現を用いて答える。</li> <li>・さまざまな時刻について尋ね、“I was [ ing ] at [時刻].” のように答える。</li> </ul> <p>【終末】</p> <p>自分の昨夜の生活を、さまざまな時刻について英文で箇条書きにする。</p>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の観察</li> <li>・学習プリントの点検</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夕方の生活を表わす英語のリストを配布し語彙を増やすなお、発音で困る生徒がいないよう、必要に応じてカタカナをふっておく。</li> <li>・適切なあいづちが対話を円滑に進めることを指導する。</li> <li>・学習プリントを集め、-ing のついた語などのつづりの間違いなどに朱筆を入れ、次時に生かす。</li> </ul>
2	<p>本単元での学習内容や学習の進め方を理解しめあてをもつことができる。</p>	<p>【導入】</p> <p>前時の対話活動を相手を変えて行う。</p> <p>【展開】</p> <p>漁村体験の写真を、数枚黒板に貼り、教師と生徒で対話する。</p> <p>“What were you doing here?” “We were watching (定置網)” など</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>『漁村体験』の思い出が伝わるように報告文を書こう。</p> </div> <p>単元の学習活動や課題を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいや付けたい力を知る。</li> <li>・学習のすすめ方を知る。</li> <li>・少人数学級についてのメンバーや座席の確認をする。</li> </ul> <p>【終末】</p>					<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の観察</li> <li>・活動の観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切なあいづちをうちながら対話を進めている生徒に認める声をかけていく。</li> <li>・A3版ほどに拡大したカラー写真で、全員に見えるように提示する。</li> <li>・答え方の英語表現でつまづく場合、板書して語彙を教える。</li> <li>・学習プリントに、少人数学級への期待や不安を書か</li> </ul>

		願いをプリントに記入する。					せ、次時からの指導に生かすようにする。
3	<p>be 動詞や一般動詞の過去形を正しく使いながら、きのうの生活の感想を簡潔に話すことができる。</p> <p>§1のケンの体験活動の報告文から事実と感想を理解することができる。</p>	<p>【導入】</p> <p>きのうの生活について、フレームをもとに話す。 "I was [happy, sad, tired, great, busy], because … (事実)."</p> <p>【展開】</p> <p>教科書の3人の報告文の概要を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵から類推</li> <li>・「誰が」「何をした」</li> <li>・「何をしたか」を読み取るキーワードは何か</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>§1のケンの体験活動の報告文から、事実と感想を読み取ろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5W1Hの窓で整理</li> </ul> <p>【終末】</p> <p>事実と感想の表現の仕方を交流する。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の観察</li> <li>・学習プリントの点検</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きのうの生活を表現する語彙をリストで示す。</li> <li>・学習プリントに読み取った事実と感想が書き込まれているかを見届ける。</li> </ul>
4	<p>漁村体験について印象に残ったことを対話することができる。</p> <p>§2のメイリンの体験活動の報告文を読み取り、報告文の書き方を理解することができる</p>	<p>【導入】</p> <p>漁村体験について対話する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-What did you enjoy the most?</li> <li>-Did you enjoy cycling?</li> <li>-Did you enjoy fishing</li> <li>-How many fish did you catch?</li> <li>-How big was the fish?</li> </ul> <p>対話した時の英語（質問文と答えの文）を書く。</p> <p>【展開】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>§2のメイリンの手話についての報告文を読み取ろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講座の中で行ったこと</li> <li>・興味をもって学んだこと</li> <li>・講師の先生が手話で伝えたこと</li> </ul> <p>【終末】</p> <p>英語の音声の特徴を大切にしながら、ペアで音読し表現方法に習熟する。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の観察</li> <li>・学習プリントの点検</li> <li>・学習プリントの点検</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漁村体験について対話する時、必要となりそうな語彙をリストにして示す。未習語が多いため発音でつまづくことの少ないようカタカナをふっておく。</li> <li>・自分や相手が話した英語をリストを参照しながら書かせる。</li> <li>・学習プリントで読み取りの窓を示し、読み取ったことを記入させる。</li> <li>・特に文における強勢と区切りに留意させる。</li> </ul>
5	<p>漁村体験の事実とその時の感想を、When 節を用いて</p>	<p>【導入】</p> <p>漁村体験で行った事実とその時の感想をフレームをもとに簡単に話す。</p> <p>例) -When I ate a good</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の観察</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・When 節を効果的に用いると、事実と感想が一つの文表わせること</li> </ul>

	<p>話すことができる。</p> <p>§3の久美の田植えの報告文を読み取り、報告文の書き方を理解することができる。</p>	<p>sea food dinner, I felt great. -When I caught a small fish, I was excited. など</p> <p>自分が話した英語を学習プリントに書く。</p> <p>【展開】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>§3の久美の田植えについての報告文を読み取るう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5W1Hの窓で整理</li> <li>・事実と感想の表現の仕方</li> </ul> <p>【終末】</p> <p>英語の音声の特徴を大切にしながら、ペアで音読し表現の仕方に習熟する</p>				<p>を指導し、その表現に習熟させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちを表わすさまざまな表現が補助資料にあることを助言する。 (例) tired, sleepy, sad, scared, interested, excited, happy,</li> <li>・特に文における強勢と区切りに留意させる。</li> </ul>
6	<p>報告文を書くときの留意点や工夫点を理解することができる。</p> <p>自分が印象に残った場面を表す写真を選び、報告文に書きたい内容を想起することができる。</p>	<p>【導入】</p> <p>教科書の§1～§3の3つの報告文を通して読み報告文を書くときの留意点や工夫について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事実はず、「いつ」「どこで」「誰が」「何を」を書く。</li> <li>・より詳しく書くとき、「どのように」「どれくらい」「なぜ」を入れる。</li> <li>・感想を入れる。</li> <li>・会話文を“ ”で入れる。一つの事象は、いろいろな表現で言える。</li> <li>・「楽しかった」をいくつかの表現で表す。</li> </ul> <p>【展開】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>漁村体験で書きたい場面を選ぼう。</p> </div> <p>最も印象的な場面を表す写真を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータの画面に、CDRにあるデジタル画像を呼び出して見る。</li> <li>・画像を見て、書きたい内容を想起する。</li> </ul> <p>【終末】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな事実を書くのか、学習プリントにメモする。(日本語・英語)</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告文を書くとき、事実と感想を必ず書くことを指導する。</li> <li>・工夫した点を見つけた生徒を認め、「さん方式」などと名付け広める。</li> <li>・板書を利用しながら、表現の仕方について理解を促す。</li> <li>・一人一人に自分のもっとも印象的な場面が見つかるよう多くの画像を準備する。</li> <li>・学習プリントを集め、書きたい内容を把握しておく。</li> </ul>
7 本時	<p>事実やその時の気持ちが読み手に伝わるように、過去</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>漁村体験の思い出が、読む人によく伝わるように報告文を書こう。</p> </div> <p>【導入】</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の観察</li> <li>・適切な語彙が</li> </ul>

	形や過去進行形を正しく使って、漁村宿泊体験学習の報告文を書くことができる。	前時に選んだ写真をみながら対話する。 -Where is this? -When was this? -What were you doing? -What did you feel then? など 【展開】 対話したことを参考にして事実と感想を書く。中間交流を行う。 ・班でプリントを回し、友人の報告文を読む。事実と感想が書いているか、その部分を探す。 ・読んだ感想やアドバイスを聞き合う。 【終末】 中間交流を生かし、書き加えたり、修正したりする。				見付からないで答えにつまむ生徒には、既習の表現による言い換えの方法を教える。 ・工夫した表現や報告文として魅力的な内容を書いた生徒を認め全体に広める。 ・授業の終わりに学習プリントを集め、次時まで朱筆を入れる。つづりや文法の間違いについて指摘する。
8	漁村体験の報告文を、事実や感想に工夫を加えて、思い出がよくなるように書くことができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           漁村体験の報告文を 掲示物に仕上げよう         </div> 【導入】 加筆、修正のポイントを確認する。 【展開】 教師からの助言や朱筆を参考にして、加筆・修正する。 【終末】 B5版よりやや大きい画用紙にペンで清書する。写真をはがれないように貼って完成する。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習プリントの点検</li> <li>・学習プリントの点検</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話文や、過去進行形を効果的に使っている作品を広める。</li> <li>・つづりや文法の間違いを修正したかを見届ける。</li> <li>・作品の制作状況を観察し、ていねいな文字で適切な語間をあげ、読みやすく仕上げるよう助言する。</li> </ul>
9	漁村体験の報告文を読み合い、内容を理解すると共に書き方を学び合うことができる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">           みんなの漁村体験の レポートを読み、読んだ感想を作者のために書こう。         </div> 【導入】 完成作品を自分の机の上に置く。 【展開】 一つずつ席を移動し感想記入用紙に、読んだ感想を記入する。 ・印象に残った事実の記述 ・会話文の使用などの工夫 【終末】 本単元の振り返りをする。教室廊下などに掲示する。（授業後）			<ul style="list-style-type: none"> <li>・感想記入用紙への記述内容点検</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次のような視点で仲間の作品を読むよう指導する。</li> <li>＜視点＞ どんな事実や感想があるか 報告文としてどんな工夫やおもしろさがあるか。</li> <li>・過去形や過去進行形、When節などを効果的に用いて事実と感想を含んだ報告文を書くことができたことを認める。</li> </ul>





## 5 評価の実際と個に応じた指導事例

### (1) 本時重点的に取り上げた評価規準

< イー >

事実について、「いつ」「だれが」「どこで」「何をした」が伝わるように書くことができる。

### (2) 評価の実際

評価の方法

< 机間指導による学習プリントの点検 >

- ・書く活動をしている間に、体験活動の事実が書けているかを机間指導により見届ける。
- ・授業後、学習プリントを集めて、事実とその時の感想が正しく書けているかを見届ける。

評価の決定

- ・生徒の英作文を見て、「いつ」「だれが」「どこで」「何をした」が書けているかを判断する。  
4つの内容がすべて書けていれば、(B以上)と判断する。
- ・授業後、生徒の英作文を見て、事実とその時の感想が正しくかけていれば (B以上)と判断する。

### (3) 個に応じた指導の実際

単元構成の工夫による手立て

本時までに、どのような内容を、どのような英語で書けばよいのかの見通しを、どの生徒ももてるように対話活動を積み上げた。その結果、本時の書く場面において「全く手がかからない」「全く書けない」という生徒は一人もいなかった。

しかし、「いつ」「だれが」「どこで」「何をした」のうち、何かが欠けている生徒や、正しさの点で修正が必要な生徒がみられたので、次のような個に応じた指導を実施した。

個の学習状況に応じた手立て

< 内容と表現の引き出し >

- ・書き落としている事実の部分について、「いつ」「どこで」などと質問をし、内容と英語表現が想起できるようにした。感想についても本時の終末までに書かせたいので、中間交流の時点で書けていない生徒には、どんな気持ちだったかを個別に尋ね、書くことを促した。

< 英語の誤りについての気付きの促し >

- ・正しさの点で修正の必要がある生徒には、すぐに教師が直すのではなく、朱筆で次のような記号を書いてヒントを出し、自分で修正できるようにした。
  - 過去形や過去進行形のまちがいがある場合 (G)
  - つづりの間違い (S)
  - 語順の間違い ( )
  - その他の間違い (?)

このような指導の結果、生徒は加筆したり、これまでの学習プリントなどを見直して修正しようとした。教師は、しばらく時間を置いてから、再度机間指導により修正できたかどうかを確かめ、修正できていれば認める言葉をかけていった。

さらに、今後の指導の方向として、(G) や ( ) の誤りが顕著な生徒には、ドリル学習などで補充し、文法の誤りを減らす指導を継続していく。

## 6 参考資料

### 資料1：生徒の作品例と感想の例

Title: The Fixed Net Fishing (定置網漁) 写真は省略

On the second day in the early morning, we watched fixed net fishing on the boat. I got up at four. But I was not sleepy. Because I could not wait to see a lot of fish and sea birds. I was excited. We said, "Wow! So many fish!" I found squids and their black ink too. When we got to the sea port, we gave some fish to birds. The fixed net fishing was a hard work but fishermen did not look tired. So I was surprised. I had a wonderful time. I want to try it again.

< 単元を終えてあなたができたことや、感想を書きましょう >

伝えたいことをたくさん書くことができたので満足している。過去形や過去進行形がじょうずに使えたり、単語の順序にも気をつけられた。仲間の文がたくさん読めてわかってよかった。私の作品を読んでもらって、たくさんのコメントを書いてもらえてうれしかった。コメントでは、「文の数が多い」と「会話文があって分かりやすい」というのが多かった。

### 資料2：学習プリント例(第2時で使用)

『漁村体験の報告文を書こう』【学習のガイダンス】 この単元では、次のような学習をします。過去形の形を覚えます。「～だった」「～でしたか」「～していました、～しているところでした」 I was ~. Were you ~? I was watching TV at 8:00 p.m. last night. (過去進行形) 教科書の Lesson 3 のケン、メイリン、久美の報告文を読み取ります。・3人は、それぞれどのような体験学習をしたのでしょうか。「いつ」「どこで」「だれが」「何をした」という事実と、その時の感想を読み取る。とよいですね。ケン、メイリン、久美の報告文を参考に、みなさんが「漁村体験」の報告文を書きます。 < 正しく書く > ・過去形、過去進行形を正しく使って ・「だれが(主語)」「～した(動詞)」「何を(目的語)」の語順を守って < 適切に書く > ・他学年の生徒や、交流した相手の学校の生徒に読んでもらえるように、印象に残った事実と感想を入れて ・その時の様子がよく分かるように、会話文を入れて いっしょに漁村へ行った仲間だけでなく、先輩や後輩、さらに交流先の中学生にも、あなたの楽しい思い出が伝わるように書くために、どんな工夫をしたらよいか、Lesson 3 や Let's WRITE 1 の英文を参考にしながら、考えていきましょう。あなたが書いた報告文は、その場面がよく表れている写真を貼って、英文といっしょに掲示します。また、いくつかの作品は、ホームページで紹介したり、交流先の中学校へメールなどで送ります。

単元のめあてと評価について

次のようなことを大切にして学習していきましょう。

間違いを恐れず、できるだけ多く詳しく話したり、書いたりするように心がけましょう。

「だれが」「何をした」「どこで」「いつ」などの事実とその時の感想を報告しましょう。

体験のしたことを伝えるために、どんな内容を選び、表現の工夫をしているのか読み取らしましょう。

過去形や過去進行形を正しく使って、話したり書いたりしましょう。